

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十號

昭和十八年七月十五日(木)

海軍大臣官房

○令 達

官房備第一四四號ノ四

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

新設海軍軍用郵便所ノ事務開始ハ追テ之ヲ定ム
昭和十八年七月十日

海軍大臣
表中第十五海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ

第二十一海軍軍用郵便所	第十二航空艦隊 ノ一艦又ハ一隊	横須賀鎮守府	第十二航空艦隊	監督官 兼務 一人
			所長 專任 一人	奏任 一人
			所員 專任 一人	判任 一人
			專務 一人	判任 一人
			員 一人	判任 一人
			員 一人	判任 一人

ヲ加ヘ第三十二海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任六人判任三人」ヲ「專任三人判任三人」ニ改ム

(參照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭和十七年六月六日本欄)

官房備第一八八號

ラハウル海軍運輸部、ニューギニア民政府及第八海軍建設部ニ於ケル現場作業従事者ハ之ヲ工具ト爲スコト

ヲ得
前項ノ規定ニ關シラハウル海軍運輸部、ニューギニア民政府及第八海軍建設部ハ之ヲ昭和十七年官房第一七一六號ニ於ケル特設應ト看做ス
昭和十八年七月十三日

官房第七九二號

第一號魚雷艇ヲ雜役船ニ編入シ共ノ船種、船名、所屬

海軍公報(部内限) 第四千四百四十號

昭和十八年七月十五日

七四五

1872

等ヲ左ノ通定ム

昭和十八年七月十五日

海軍大臣

船種	船名	所屬	別定數	記事
練習艇	第一號魚雷艇	海軍水雷學校	臨時附屬	

○通牒

經給機密第一四四號

昭和十八年七月十三日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

獎勵加給平均率ニ關スル件通牒

當分ノ間得撫島以北ノ千島諸島ニ在ル海軍ノ各部ニ勤務(派遣ヲ含ム)ノ工員ニ對スル獎勵加給ハ昭和十二年六月四日艦本機密第八四二一號及同年八月二十一日艦本機密第一三九七七號ノ規定ニ拘ラズ平均五割迄支給スルコトヲ得

○辭令

(各通)

海南警備府附ヲ命ス

大東亞屬 土川 福雄

南西方面艦隊民政部附ヲ命ス

同 小坂 寬見

(各通)

第二南遣艦隊司令部附ヲ命ス(増對時海軍省)

大東亞技手 野呂 一正

第十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

通信書記補 井上 直一

第十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上各同)

事務員 太田 清司

東京海軍通信隊附ヲ免シ第十通信隊附ヲ命ス(各同)

通信書記補 濱田 民登

(各通)

氣象技手 草野 和夫

水路部附兼海軍氣象部ヲ免ス(各同)

同 伊東 玄一郎

北村 寬一

1873

<p>第六海軍軍用郵便所員ヲ免ス<small>(註同)</small></p> <p>遞信屬 市川 涉</p> <p>電波物理研究所研究官補 小島 莊</p> <p>幌筵通信隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス</p> <p>電波物理研究所員 愛智 康夫</p> <p><small>(各通)</small> 同 北山 惣三郎</p> <p>幌筵通信隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス</p> <p>同 後藤 功</p> <p>第二十三特別根據地隊附兼海軍技術研究所附ヲ免シ</p> <p>幌筵通信隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス</p> <p><small>(各通)</small> 同 池田 正男</p> <p>同 笠井 勝</p> <p>第二十三特別根據地隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス</p> <p><small>(以上註同)</small></p> <p><small>(各通)</small> 海軍大佐 北川 金光</p> <p>海軍技術中佐 大平 一郎</p> <p>海軍技術少佐 中村 通夫</p> <p>陸海軍<small>(除航空)</small> 技術委員會委員ヲ命ス</p> <p>海軍技術師 溝部 浩</p> <p>陸海軍<small>(除航空)</small> 技術委員會委員ヲ免ス</p>	<p>大藏省監督官 久野 滋吉</p> <p>第二南遣艦隊司令部附ヲ免ス<small>(註同)</small></p> <p>軍令部課長海軍大佐 杉浦 矩郎</p> <p>兼第二部第四課長ヲ命ス</p> <p>軍令部部員海軍中佐 入江 籌直</p> <p>第三部第八課勤務ヲ命ス<small>(以上註同)</small></p> <p>海軍大佐 杉浦 矩郎</p> <p>兼參謀部第二部第四課長ヲ命ス</p> <p>海軍中佐 入江 籌直</p> <p>參謀部第三部第八課勤務ヲ命ス<small>(以上註同)</small></p> <p>大木營海軍部</p> <p>海軍中佐 中村 馨</p> <p>第三課勤務ヲ命ス</p> <p>海軍省兵備局ニ於ケル事務ヲ囑託ス</p> <p>但シ報酬月額七拾五圓ヲ給シ部内限制任官ヲ以テ待遇セラル</p> <p>第四課附ヲ命ス<small>(註同)</small></p> <p>海軍省兵備局</p>
<p>海軍公報<small>(部内限)</small> 第四千四百四十號</p> <p>昭和十八年七月十五日</p> <p>七四七</p>	<p>○ 雜款</p> <p>司令潜水艦變更</p>

第十九潜水隊司令ハ七月八日司令潜水艦ヲ伊號第百五十八潜水艦ニ變更セリ

○事務開始

六連艦裝員事務所ハ六月二十八日大阪市此花區櫻島日立造船株式會社櫻島造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

藤波艦裝員事務所ハ七月三日大阪市住吉區柴谷町四四番地藤永田造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務開始

高崎艦裝員事務所ハ七月五日横濱市中區綠町三丁目四番地ノ二、三菱重工業株式會社横濱造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所移轉

大阪地方海軍人事部假事務所ハ七月八日大阪市北區玉江町一丁目四番地(大阪水交社隣接地)ニ移轉セリ

○正誤

本月六日附公報(部内限) 辭令欄六九九頁上段八卷正幹ノ發令月日「(七)同」ハ「(六)同」ノ誤

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十一號

海軍大臣官房

昭和十八年七月十六日(金)

○令 達

官房軍第七九三號
雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス
昭和十八年七月十五日

海軍大臣

公稱番號	船 種	舊所屬	新所屬	別定數	記事
第八七〇號	曳船兼交通船 (百五十噸)	館山海軍航空隊	洲ノ埼海軍航空隊	定數	
第二〇七號	内 火 艇 (十五米)	海軍技術研究所	相模海軍工廠	同	
第二三三號	内 火 ランチ (十二米)	松島海軍航空隊	豐橋海軍航空隊	同	
第五九七號	起 重 機 船 (舉揚力三十噸)	徳山海軍港務部	第二海軍航空廠	同	
第五九八號	同	第二海軍航空廠	徳山海軍港務部	同	
第一四九六號	曳 船 (百五十噸)	馬公海軍港務部	高雄海軍港務部	同	
第一四九五號	交通船兼曳船 (二十噸)	同	同	同	

○通 牒

經物第一〇九號

昭和十八年七月十四日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿
前金拂又ハ概算拂契約承認者名簿中削除ノ件通知

昭和十六年九月經物第一六三號別冊首題承認者名簿中左記ノモノハ海軍購買名簿登錄者ニ付前記承認者名簿ヨリ削除致候
記

海軍公報(部内限) 第四千四百四十一號

昭和十八年七月十六日

七四九

1876

會社名	所在地	備考
愛國産業株式會社	川崎市藤崎町二ノ一〇八	兩館船渠株式會社
青木鐵工所 (青木鐵工所)	兵庫縣赤穂郡相生町相生字網ノ浦四三六〇ノ一	合資會社深川鐵工所
株式會社岡田商會	東京都深川區森下町二ノ七	深見藤次郎 (深見鐵工所)
岡野バルブ製造株式會社	門司市大里三三五三	合資會社増田製作所
合名會社颯波鐵工所	大阪市東淀川區中津濱通三ノ六	株式會社丸鐵工所
株式會社島野鐵工所	堺市老松町二ノ二〇	株式會社丸鐵工所
株式會社清水精密機械 工具製作所	東京都蒲田區古市町四七ノ一	三菱化工機株式會社
田熊汽罐製造株式會社	尾崎市濱字海地一五	株式會社宮製鋼所
株式會社武田鐵工所	東京都蒲田區羽田木町三六五	虫印バルブ製造株式會社
中央理化工業株式會社	東京都神田區花房町二	株式會社日本商會製作所
株式會社塚本電機製作所	東京都京橋區銀座西四ノ三ノ二	經物第一一〇號
東洋機械工業株式會社	東京都蒲田區仲六郷二ノ一四	昭和十八年七月十四日
南海鐵工株式會社	大阪市西成區粉濱本町二ノ四	海軍省經理局長
株式會社日本工具製作所	大阪市東淀川區十三西之町四ノ二五	關係各廳長殿
		前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件
		通知
		昭和十七年經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件
		左記ノ通承認致候

記		望月	辰工	廠
株式會社三榮精機製作	東京都京橋區京橋二ノ九	望月鐵工所	清水市日之出町一ノ二〇	
佐東合名會社	東京都品川區東品川四ノ一五	油野工業株式會社	大阪市西成區津守町四三一	
株式會社新宮商行	小樽市色内町七ノ五六	橫濱重工業株式會社	橫濱市神奈川區守屋町一ノ三	
須賀水壓機製造株式會社	東京都城東區龜戶町六ノ八五	リードミン株式會社	東京都芝區芝浦三ノ一	
昭南電機株式會社	東京都大森區調布千鳥町七三	若松築港株式會社	若松市海岸通一丁目開一ノ一	
合資會社田村鐵工所	秋田縣北秋田郡山瀬村岩瀬瀨大柳三〇	航空機密第一〇〇四六號	昭和十八年七月十五日	海軍航空本部總務部長
株式會社田村機械製作	大阪市東區今橋五ノ一二	各艦隊參謀長、各鎮守府參謀長 各警備隊、各航空戰隊司令官 各航空隊司令、各母艦艦長 航空技術廠、各航空廠 各燃料廠總務部長、各監督長 航空用燃料「メタノール」ニ關スル件照會 首題ノ件左ノ通定メラレ候 依ツテ昭和十八年航空機密第二三五七號、航空本部報第一七五號、所載ノ假稱甲「メタノール」假稱乙「メタノール」ノ名稱ハ廢止セラレ候		
東亞特殊製鋼株式會社	東京都麴町區内幸町二ノ一			
東北振興化學株式會社	東京都京橋區銀座西三ノ一			
東亞鑄鋼株式會社	尼崎市杭瀬後野三五			
日本開發機製造株式會社	橫濱市鶴見區市場町一一五〇			
合資會社日本鉛管製造	東京都芝區三田四國町二番地六號			
日滿商事株式會社	滿洲國新京特別市大同大街三〇二號			

海軍公報(部内限)第四千四百四十一號 昭和十八年七月十六日

七五一

1878

名	稱	記號	成	分	凝固點	記	事
甲	「メタノール」	甲 M	一號「メタノール」一五〇立+水五〇立	零下七〇度	空中氣溫零下四〇度以下ノ酷寒用		
乙	「メタノール」	乙 M	一號「メタノール」一〇〇立+水一〇〇立	零下四〇度	一般用		

(備考)

(一)「防蝕劑」トシテ甲、乙「メタノール」共二〇立ニ就キ「クロム酸カリ」二〇瓦ヲ添加ス
 (豫メ少量ノ水ニ溶解セシメ使用直前ニ混合スルモノトス)

(二)水ノ純度ハ水道水ニ準ズ
 一般ノ供給ハドラム罐入一號「メタノール」トシテ送付シ使用場所ニ於テ調合スルヲ例トス
 ルモ特ニ水ノ入手不便ナル場所ニ對シテハ要求ヲ俟テ水ト混合シタルモノヲ送付ス

(三)〇 辭令

(各通)

機械工員 井上忠二郎
 線路工員 黒田 誠
 横須賀鎮守府附ヲ免ス(海軍省)
 鐵道官補 三木 武夫

(各通)

海軍運輸本部附ヲ命ス 同 津田 正雄
 同 白井 十一
 海軍運輸本部附ヲ免ス(以上同) 同 佐藤 七治
 軍令部員海軍少佐 井上 正夫
 第一部第二課兼同第十二課第二部第九課勤務ヲ命ス 同 神川 茂紀
 同 同
 第二部第三課勤務ヲ命ス 軍令部出仕海軍少佐 福島 勉
 特務班班員ヲ命ス(以上海軍省) 海軍少佐 井上 正夫
 參謀部第一部第二課兼同第十二課第四部第九課勤務ヲ命ス 同 神川 茂紀
 參謀部第二部第三課勤務ヲ命ス(以上海軍省) 同 神川 茂紀

1879

軍部

海軍主計中尉 高松 敬治
第一輸送隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(附支) 支出官 海軍省經理局長)

○雜款

○試驗問題發送

- 第九十八期高等科砲術(大口徑、中口徑)練習生
- 第九十九期高等科砲術(對空高角砲)練習生
- 第一百一期高等科砲術(對空機銃)練習生
- 第一百二期高等科測的術練習生

採用試驗問題
右七月十日左記ノ通發送濟、未着及別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ橫須賀海軍砲術學校へ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ所轄ニハ直送
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部、大湊、鎮海警備府宛送付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記宛單獨試驗用問題若干送付シ置ケリ

(橫須賀海軍砲術學校)

- 第一回普通科暗號術章付與餘衡試驗問題
右七月九日左ノ通發送致候
- 一 單獨試驗施行ノ分 直接各部宛
- 一 聯合試驗用 各人事部長宛
- 一 應急出動艦船用

○開隊

第五〇一海軍航空隊ハ七月一日木更津航空基地ニ於テ開隊セリ

○事務開始

第三三一海軍航空隊ハ七月一日佐伯海軍航空隊ニ於テ事務ヲ開始セリ

橫須賀海軍警備隊船舶警戒隊事務所ヲ左ノ通設置シ夫々事務ヲ開始セリ

橫濱地方海軍運輸部内	七月三日
大阪在勤海軍武官府内	七月六日
門司在勤海軍武官府内	七月十一日
三池在勤海軍武官府内	七月十三日

○事務所復歸

築城海軍航空隊ハ六月二十五日本隊ノ事務ヲ福岡縣築

城海軍航空隊ニ復歸セリ
尙當隊へ入隊者旅行先ハ福岡縣築上郡築城村

○事務所撤去
呂號第百十潜水艦艦裝員事務所ハ七月六日撤去セリ
前島艦裝員事務所ハ七月十四日撤去セリ

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十二號

海軍大臣官房

昭和十八年七月十七日(土)

○令 達

官房人機密第一三〇號ノ二

本年官房人機密第一三〇號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十五日

海軍大臣

表中採用資格ノ項「掌測的兵、」ノ下ニ「掌機雷兵、」ヲ加ヘ入校時期、採用員數及修業期間ノ部入校時期昭和十八年五月中旬ノ欄ノ下ニ左ノ如ク加フ

昭和十八年 九月中旬	昭和十八年十一月月中旬	昭和十九年 一月中旬
掌電信兵 出身者	掌砲的兵 出身者	掌機雷兵 出身者
六(一)	六(一)	六(一)
四(一)	四(一)	四(一)
一	一	一
三	三	三
四(一)	四(一)	四(一)

約四月	約六月	約四月
四(一)	二	一
二	一	一
三〇	一五	二

備考ヲ左ノ如ク改ム
採用員數中括弧内ハ内大(中)尉ヲ以テ充ツベキ員數ヲ示ス

(昭和十八年四月十二日本欄参照)

官房艦機密第六號ノ四三

昭和十八年七月十五日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

各潜水艦兵器簿運用長主管之部中左記ノ通改正ス

記

海軍公報(部内限) 第四千四百四十二號

昭和十八年七月十七日

七五五

區分	類別	品名	摘要
削除	防毒兵器	三號除毒劑	定數全部削除

官房人第一七九六號

昭和十六年官房第四一六七號及昭和十七年官房第六四二〇號之ヲ廢止ス

昭和十八年七月十六日

海軍大臣

(參照) 昭和十六年官房第四一六七號ハ五月一日入團ノ海軍兵ノ一等兵ヨリ上等兵ヘノ進級期ニ關スル件ナリ(諸例則卷二、一九二頁)

昭和十七年官房第六四二〇號ハ練習兵ノ二等兵ヨリ一等兵ヘノ進級期ニ關スル件ナリ(諸例則卷二、一九二頁)

官房人第一七九七號

當分ノ間充員召集中ノ二等兵タル補充兵及第二國民兵ノ一等兵ヘノ進級ハ二等兵ヲ命ゼラレタル日ヨリ三月半ヲ經過シタルトキ之ヲ實施スルモノトス

昭和十八年七月十六日

海軍大臣

官房經第七八六號

昭和十七年官房第四九二二號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十六日

海軍大臣

第三號中「前二號」ヲ「前三號」ニ改メ同號ヲ第四號トシ以下順次繰下グ第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

三 賣拂ヒ得ル材料物品ハ海軍用トナルベキモノ又ハ甲造船ノ製造又ハ修理ニ使用スル材料物品ニ限ル

附則

明治四十一年經四第一七五號ノ三、明治四十四年經物第四七〇號及昭和十八年經豫機密第二號ノ一〇ハ之ヲ廢止ス

(參照) 海軍會計法規類集一卷六九三頁、同四卷四九頁、昭和十八年三月九日附海軍公報(部内限)

官房經第七八八號

昭和十八年官房經第三六二號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十六日

海軍大臣

〔左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ〕ノ下ニ「雇員傭人給

與規則第十四條ノ規定ニ拘ラズ」ヲ加ヘ

「雇員 月給 四圓五十錢以内
日給 十五錢以内」ヲ

「雇員、傭人長 月給 十五錢以内」

「雇員、傭人長 月給 四圓五十錢以内
傭人（傭人長ヲ除ク） 日給 十五錢以内」ニ、

「雇員 月給 三圓以内
日給 十錢以内」ヲ、

「雇員、傭人長 月給 十錢以内」

「雇員、傭人長 月給 三圓以内
傭人（傭人長ヲ除ク） 日給 十錢以内」ニ、

「雇員 月給 一圓五十錢以内
日給 五錢以内」ヲ

「雇員、傭人長 月給 一圓五十錢以内
傭人（傭人長ヲ除ク） 日給 五錢以内」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

（参照）昭和十八年四月一日海軍公報（部内限）

官房人機密第三五三號

昭和十七年官房機密第一一二七五號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十五日

海 軍 大 臣

表中採用員數ノ部入校期日昭和十八年八月上旬以降ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

（昭和十八年 八月上旬）（昭和十八年 十一月上旬）（昭和十九年 二月上旬）

九	九	九	九	九
八	八	八	八	八
六	六	六	六	六
三二	三二	三二	三二	三二

（昭和十七年九月七日日本欄参照）

官房人機密第三五二號

昭和十七年官房機密第一四五四號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十五日

海 軍 大 臣

表中採用員數ノ部入校期日昭和十八年九月上旬ノ欄乃至昭和十九年三月上旬ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

海軍公報（部内限）第四千四百四十二號

昭和十八年七月十七日

七五七

(昭和十八年九月月上旬) (昭和十八年十二月月上旬) (昭和十九年三月月上旬)

一三二	一三二	一三二
一一一	一一一	一一一
一一一	一一一	一一一
六	六	六
四〇	四〇	四〇

(昭和十七年十一月二十四日本欄参照)

○通牒

官房空機密第一四〇五號

昭和十八年七月十五日

海軍省副官

各鎮守府 各警備府 副官殿

飛行機(艇)貸與ニ關スル件通知

自今飛行機(艇)ノ貸與ニ關シテハ特ニ定ムルモノノ外補用兵器、整備兵器、搭載兵器、消耗兵器ハ必要ニ依リ貸與竝ニ供給差支ナキ義ト定メラレ候

軍需機密燃第一九七號

昭和十八年四月一日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

燃料繰替供給單價ノ件通牒

昭和六年官房第三三五六號ニ依ル本年度燃料繰替供給單價ハ前年度通ト定メ候

○辭令

乾陽丸首席通信士 福島 一馬 (昭和十六年九月三日附)

乾陽丸 船長 春光 清太郎 (昭和十七年四月二十三日附)

乾陽丸一等機關士 徳毛 中一 (昭和十七年五月六日附)

乾陽丸二等運轉士 増田 善一 (昭和十七年十月二十二日附)

乾陽丸一等運轉士 馬越 英機 (昭和十八年一月五日附)

乾陽丸次席一等機關士 和田 忠雄 (昭和十八年一月十二日附)

乾陽丸機關長 多田伊平太
(昭和十八年一月十四日附)
 賜託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(以上海軍省)

鎌倉丸 船長 栗田 達也

同 一等運轉士 野澤 宇一

同 二等運轉士 永山 徳太郎

同 三等運轉士 菊田 保太郎

同 機關長 藤村 定行

同 首席一等機關士 小島 廣太郎

同 次席一等機關士 富永 榮

同 二等機關士 改田 章平

同 同 古谷野 力

同 同 川嶋 稔

同 同 本中 繁一

同 同 三宅 勤

同 同 岩下 英

同 同 首席電機士 只見 卓

同 同 船醫 田中 吉郎

同 同 事務長 甲斐 徹志

賜託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

○ 雜 款

○正誤
 七月九日附公報(部内限)七一六頁雜款欄第五三一海
 軍航空隊ノ事務開始「七月七日」ハ「七月一日」ノ誤

海軍公報(部内限)第四百四百四十二號

昭和十八年七月十七日

七五九

1886

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十三號

海軍大臣官房

昭和十八年七月十九日(月)

○ 通 牒

艦本機密第一號ノ九三六五

昭和十八年七月十三日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

二十五耗機銃曳引通常彈藥包二型性能ノ
件通知

今般首題彈藥包供給セラルルコト相成候處其ノ主要
性能等左記ノ通ニ有之

記

- 一 曳引(秒時六秒以上)後射距離三〇〇〇米乃至四
一〇〇米(秒時七秒乃至十二秒)ニ於テ自爆シ味方
陣地等ニ對スル被害ヲ少ナカラシム
- 二 炸藥量ハ從來ノ曳引通常彈ノ約八割
- 三 差當リ要地防空用トシテ供給ス

海軍公報(部内限) 第四千四百四十三號

昭和十八年七月十九日

七六一

艦本機密第一〇二九八號

昭和十八年七月十七日

海軍艦政本部總務部長

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

飛行機用雷擊關係兵器修理ニ關スル件照會

達第一二五號及軍務機密第三九九號通知ニ關聯シ首題
兵器ハ海軍艦政本部ヨリ海軍航空本部ニ移管セラレ候
處之ガ修理等ニ關シテハ當分ノ間從來通艦本系工作廳
ニテ施行相成度

追テ海軍航空廠艦船部隊等ヨリノ修理請求手續申書
類ニハ從來ノ「水雷長主管」ヲ「飛行長主管」ナル
字句ヲ使用セシメラレ候ニ付了知相成度

○ 辭 令

南西方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

吉住留五郎

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(三三海軍省)

立山丸一等機關士 淺見 拾吉
囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命ジ報酬年額千五百五拾圓ヲ給ス(三五同)

田中 信造
南西方面艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

江原 奎恵
第二海軍衣糧廠岡山支廠ニ於ケル教務ヲ囑託ス
但シ報酬年額八百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上三四同)

永山 俊三
南西方面艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

林 不二雄
南西方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第百二海軍經理部ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

千貳拾圓
千八百貳拾圓
(各通)

吉住 留五郎
戸川 源司
穴澤 登
千參百圓
木村 博

南西方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス
但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

南洋廳熱帶産業研究所技師 蘆澤 安平
マカツナル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス(以上三四同)

本田 敬之
齋藤 潤
橋本 國雄
末次 平八
乾 信明
(各通)

河村 二十三
南西方面艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(三五同)
海軍經理學校憲法軍制學教授囑託
千八百圓
佐々木 重藏

海軍經理學校財政學教授囑託

千六百貳拾圓

井藤 半彌

海軍經理學校柔道教授囑託

千八拾圓

三船 久藏

(通各)

海軍經理學校劍道教授囑託

千八拾圓

中山 博道

海軍經理學校糧食調理教授囑託

參千圓

北川 敬三

海軍經理學校習字教授囑託

千貳拾圓

田中 光三

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ贈(給)與ス

別所二郎藏

第五艦隊業務兼千島方面特別根據地隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

ス(以上六〇〇同)

飯田 鐵次

セラム民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

ス(以上六〇〇同)

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

本田 親喜

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

ス(以上七〇〇同)

第四艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

鈴木 貞雄

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

池田 金造

南西方面海軍民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額參千五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

トス(以上六〇〇同)

神浪 音八郎

南西方面海軍民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

小杉 速

マカッサル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千五百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇ト

トス(以上六〇〇同)

小田 積美

第五艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解キ大湊警備府ニ於ケ

海軍公報(部内限)第四千四百四十三號

昭和十八年七月十九日

七六三

1889

ル業務ヲ囑託ス(報酬 如故)

星崎 周平

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

トス(以上同)

(各通)

吉田 敬止
佐藤 石藏

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

野澤 治作

ラバウル海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

ス

(各通) 貳千八百七拾圓
貳千五百貳拾圓

赤松 稔
永山 規矩雄

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

待遇トス

竹内 英雄

マカッサル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

待遇トス(以上同)

第四艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(同)

細川 悟

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ解キ第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

松村 信次郎

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(各通)

増田 即定
西村 義人

第四海軍建築部土木業務ヲ囑託シ解キ海軍施設本部ニ於ケル土木業務ヲ囑託ス(報酬 如故)

中野 吉時

第四海軍建築部電氣業務ヲ囑託シ解キ海軍施設本部ニ於ケル電氣業務ヲ囑託ス(報酬 如故)

加藤 源治

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ解キマカッサル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬 如故)

熊野 忠雄

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

海軍技術少佐 高橋 修一

陸海軍(除航空)技術委員會委員ヲ命ス(此同)

岡 修一郎

横須賀海軍工廠機關實驗部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

東京帝國大學教授 田中 豊

同 山崎 匡輔

同 濱田 稔

東京工業大學教授 田邊 平學

元鐵道官 藤井松太郎

同 渡邊 貫

北澤 五郎

辻 二郎

東京工業大學助教授 藤岡 通夫

西田 正孝

海軍施設本部ニ於ケル研究業務ヲ囑託ヲ解ク

澄田 勘作

岩崎 富久

海軍施設本部ニ於ケル土木業務ヲ囑託ヲ解ク

元土木事務官 眞木 英男

海軍施設本部ニ於ケル事務ヲ囑託ヲ解ク

元内務技師 河口 協介

海軍施設本部ニ於ケル業務ヲ囑託ヲ解ク

六所 文三

大木 説喜

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

和田 完二

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

北海道廳技師 廣田 實

海軍省事務ヲ囑託ス

税關事務官 長谷井輝夫

海軍省事務ヲ囑託ス

海軍航空技術廠發動機部研究業務ヲ囑託

沼知 福三郎

兼海軍航空技術廠支廠雷撃部ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス(報關如故)

稻山 嘉寛

馬場 俊藏

渡邊 一良

(各通)

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上)

(此同)

グアム民政部長海軍中佐 保村 禎一

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ニ指定ス(海軍大臣)

通信部特務班勤務ヲ命ス(海軍大本營海軍部) 海軍大尉 松隈 正雄

通信部特務班勤務ヲ命ス(海軍少佐) 飯田 久吉

通信部特務班勤務ヲ命ス(海軍大尉) 谷口 精二

通信部特務班勤務ヲ命ス(海軍少佐) 福島 勉

第四課勤務ヲ命ス(海軍大佐) 栗原 悦藏

(各通) 同 末澤 慶政

第二課勤務ヲ命ス(各通) 同 柴 勝男

第一課勤務ヲ命ス(以上同) 海軍主計中尉 吉田 英三

第百二十一設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(支拂官)

海軍省經理局長)

第二三一設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(海軍主計少佐) 近藤 道生

セラム民政部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(海軍主計少佐) 兒玉 茂

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上同) 村岡 達志

(各通) 海軍少佐 飯田 美照(通校)

海軍大尉 松井 宗明(通校)

同 村上 治重(霞空)

二月二十三日官房艦機密第八二二號假稱三式電信機實驗委員ヲ命ス(海軍大佐) 橋本 宙二(艦本)

(各通) 海軍少佐 太田黒 康雄(通校)

同 荻原 未年夫(通校)

二月二十三日官房艦機密第八二二號假稱三式電信機實驗委員ヲ免ス(以上同) 海軍艦政本部)

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十五號

昭和十八年七月二十一日(水)

海軍大臣官房

○通牒

官房備機密第一四五號ノ九

昭和十八年七月二十日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件通牒

官房備機密第一四五號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通知メラレ候

記

附錄所在地區別符表(其ノ四)中ニ「ワインガツプセ 參九」ヲ加フ

同 部隊區別符表(其ノ一)中「第二十九防空隊 ヲ九七」第三十防空隊 ヲ九八「第四十設營隊 ヲ貳五六」ヲ削ル

同 (其ノ三)中ニ「第四十設營隊 イ六七」「第十二警備隊 イ六八」ヲ加フ

同 (其ノ四)中ニ「第三聯合通信隊司令部 セ八貳」「第三十防空隊 セ八參」「第二十九防空隊 セ八四」ヲ加フ

軍務一機密第五九四號

昭和十八年七月二十日

海軍省軍務局長

各艦隊 各鎮守府 各警備府 參謀長殿

指揮官ヲ置カレタル特設運送船等ノ旗章 掲揚ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シテハ特務艦ニ準ジ旗章ヲ掲揚スル義ト了知相成度

海人機密第七三號

昭和十八年七月二十日

海軍省軍務局長 海軍省人事局長

各廳長殿

海軍公報(部内限) 第四千四百四十五號 昭和十八年七月二十一日

七六九

1893

恩給年彼勳年加算資料ノ件照會

昭和十七年海人機密第一〇二號照會首題ノ件別紙「加算始終期調」備考ニ左記ノ通追加相成度

記

五 本調書ハ内戦部隊ノモノニ在リテハ所屬ノ鎮守府又ハ警備府司令部ヲ、支那方面艦隊ノモノニ在リテハ同艦隊司令部ヲ經由スルモノトス鎮守府、警備府又ハ支那方面艦隊司令部ニ於テハ艦船部隊提出ノモノヲ一ヶ月毎ニ取り纏メ要スレバ之ニ加算始終期又ハ加算率ニ關スル意見ヲ附シ送付ノコト

〇辭令

軍令部課長海軍大佐 平出 英夫

第三部第八課長ヲ命ス

鈴木 忠良

第四部第十課長ヲ命ス(以上^{以上}軍令部)

海軍大佐 平出 英夫

參謀部第三部第八課長ヲ命ス

栗原 悅藏

報道部第一課長ヲ命ス

通信部第十課長ヲ命ス(以上^{以上}大本營海軍部) 同 鈴木 忠良

〇雜款

〇訂正
六月十七日附公報(部内限) 令達欄官房經第六八八號中「昭和十四年度官房第三八九四號別表第三備考第四號」ヲ「昭和十四年度官房第三八九四號別表第三」ニ、七月九日附公報(部内限) 令達欄官房經機密第四一二號第三條第二項中「該廳」ヲ「該廳長」ニ孰モ訂正ス

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十七號

昭和十八年七月二十三日 (金)
海軍大臣官房

(前送ノモノト引換ヘ前紙ハ燒却相成度)

○通牒

官房軍機密第八八五號

昭和十八年七月二十二日

海軍省 副官

各廳長殿

職員名簿等ノ取扱ニ關スル件申進

戰時下配員ノ狀況ハ特ニ機密ヲ要スルニ鑑ミ本年ヨリ
現役海軍士官名簿モ極秘扱トセラレタル次第ナル處各
部ニ於ケル職員名簿等ヲ秘扱トシ或ハ機密ノ指定ナク
配付セラレアル向モ謫カラザルニ付爾後此ノ種書類ハ
極秘扱トシ機密保持ニ留意セシメラレ度

○辭令

鐵道手 加藤 三郎
鐵道省雇 渡邊 末長
同 因幡 喜代松

(各通)

海南警備府附ヲ命ス(海軍省)

同	橋本 進
同	松澤 泰治
同	藤田 重一
同	中尾 政治
同	谷本 計三
同	石崎 寛一
同	高岡 羊吾
同	中村 忍
同	古谷野 均
同	大島 一太郎
同	林 眞治
同	飛田 健二郎
同	鹿島 竹千代
同	志摩 庚子郎
同	高橋 優
同	太田良 直治
同	富岡 次郎

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十七號 昭和十八年七月二十三日

七七五

1895

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十九號

海軍大臣官房

昭和十八年七月二十六日(月)

○ 令 達

官房備第一九四號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通告正ス

昭和十八年七月二十三日

海 軍 大 臣

表中第五海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任、六人判任」ヲ「專任 八人判任」ニ、第二十五海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任 十二人判任」ヲ「專任 十五人判任」ニ改ム

〔專任 十五人判任〕ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭和十七年十月六日本欄)

官房經機密第四五六號

軍需品以外ノ對南方交流物資ノ取得及賣拂手續中左ノ通告正ス

昭和十八年七月二十四日

海軍公報(部内限) 第四千四百四十九號

昭和十八年七月二十六日

七八九

海 軍 大 臣

第二十五條ノ二 本手續ニ依ル物資ノ賣拂代金ニ付テハ第十一條又ハ第二十一條ニ依リ買受人ニ對シ物資引渡ノ日ヨリ起算シ左ノ區分ニ依リ之ガ延納ヲ許可スルコトヲ得

一 品質檢定ヲ要スル物資ニ在リテハ六月以内

二 其ノ他ノ物資ニ在リテハ三月以内

第二十五條ノ三 前條ニ依リ許可シタル延納代金ニ付テハ擔保ノ提供ヲ免除スルコトヲ得

○ 通 牒

兵備四機密第六九四號

昭和十八年七月二十六日

海 軍 省 兵 備 局 長

關係廳長殿

海軍軍屬トシテ從軍中ノ海陸軍在郷軍人

ノ兵役事務取扱ノ件中改正ノ件申進

昭和十七年兵備機密第一九一號(昭和十七年二月二

日海軍公報(部内限) 参照) 首題ノ件ニ關シ通報先ヲ左ノ通變更セラレ候
通報先 陸軍ノ部

陸軍		通 報 先	區 分
朝鮮、臺灣、關東州各在留地兵事部長	本籍地聯隊區司令官	陸軍省人事局長	將 官
			右以外

兵備四機密第六九六號

昭和十八年七月二十六日

海軍省兵備局長

關係廳長殿

雇員備人規則改正ニ關スル件申進

本年六月十五日達第四百四十六號ヲ以テ首題規則改正セラレ六月二十二日官房備機密第一九二號ニ依リ雇員備人等級付與ニ關シ定メラレタル處現行規則ヨリノ轉換時ニ於ケル之ガ取扱ニ關シテハ左記各號参照ノ上可然取計相成度

記

一 現ニ雇員タルモノハ改正ノ雇員備人規則ニ依ル雇

員トシ特別ノ場合ヲ除クノ外備人トセザルモノトス
二 規則改正ニ伴フ職名ノ變更ハ左表ニ依ル

雇員		備人	
舊	新	舊	新
筆 記	理事生	海圖彫刻手	彫 刻 手
筆 生		海圖印刷手	印 刷 手
技 生		裁 斷 手	裁縫手(裁斷)
技 具		麵 麩 手 長	製糰手(麵麩)
器 械 手	技 工 士	麵 麩 手	
靴 工 長		研 磨 手	工作手(研磨)
倉 庫 長		割 烹 手	割 烹 手
坑内取締	守 衛	舟 夫 長	
看 護 婦 長	看 護 婦	舟 夫	操 船 手
裁 縫 長	裁 縫 士	水 栓 手	工作手(水栓)
裁 斷 長		潛 水 夫	潛 水 手

											麵麩長	精米長		
											製糧士			
看 護 婦	軍用郵便夫	剃 夫	定 夫	飛 行 場 夫	使 丁	烹 炊 夫	洗 濯 夫	消 毒 夫	火 夫	經 師	靴 工 手 長	鐵 道 線 路 工 夫	印 刷 工	整 備 手
養成看護婦	軍用郵便手	理 髮 手	用務手(整理)	用務手(使用)	烹 炊 手	洗 濯 手	衛 生 手	機 關 手(罐)	經 師 手	靴 工 手	線 路 手	印 刷 手	兵 器 手(整備)	
<p>備考</p> <p>(一) 坑手ハ技工士ニ身分變更ス</p> <p>(二) 助産婦ハ看護婦ニ身分變更ス</p> <p>三 専ラ消防ノ業務ニ服スルモノハ警防手ニ職名變更ス</p> <p>四 現ニ傭人タルモノニシテ雇員ニ身分ヲ變更スベキモノ(例看護婦ノ一部)及雇員ニ身分變更ノ資格ヲ有スルモノハ豫算定額内ニ於テ身分ヲ變更スルコト</p> <p>五 等級付與ハ保有員數以内ニ於テ適宜實施スルモノトス</p> <p>六 現ニ部内限判任待遇タルモノハ雇員長ト爲スコト</p> <p>七 工員ニ身分ヲ變更シ職地ニ派遣中ノモノ復歸セル場合ハ派遣中ノ勤務期間ヲモ通算シ保有員數以内ニ於テ其ノ都度等級ヲ付與スルモノトシ</p> <p>八 雇員長ノ選衡ニ當リテハ勤続年數ノミナラズ人物</p>														
											見習看護婦	記 録	記 録	
											配 給 手	運 輸 手	精 米 手	製 糧 手(精米)

1899

技倆ヲモ併セ考慮シ名實共ニ一班ノ長タリ得ルコト
ニ重點ヲ置クモノトス
九 雇員特ニ雇員長ハ事務ノミニ其ノ職務ヲ限定スル
コト大ク各其ノ業務ニ應シ廣ク現場作業ニモ從事セ
シムル如クス

教育機密第二二一號

昭和十八年七月二十三日

海軍省教育局長

各鎮守府參謀長 殿
各警備府參謀長 殿
内火術特技兵(魚雷艇乘員ニ充ツベキモ

ノ通
(別紙添)
臨時講習教程標準ノ件通牒
昭和十四年官房機密第六五八九號ニ依ル首題ノ件別紙

艦本機密第一號ノ九九三三

昭和十八年七月二十四日

海軍艦政本部總務部長

各海軍軍需部長 殿
關係各廳長 殿
三十七耗砲及三十七耗戰車砲用彈藥筒ノ
件通知(砲術長主管)
首題彈藥筒ノ使用區分左記ノ通ニ付了知相成度

彈藥筒呼稱	使用砲種	記	事
九四式三十七耗戰車砲九四式榴彈藥筒	九四式三十七耗戰車砲		
九四式三十七耗戰車砲九四式徹甲彈藥筒			
九四式三十七耗砲九四式榴彈藥筒			
九四式三十七耗砲九四式徹甲彈藥筒			
九四式三十七耗砲一式徹甲彈藥筒			

1900

一式三十七耗砲九四式榴彈藥筒
 一式三十七耗砲九四式徹甲彈藥筒
 一式三十七耗砲一式徹甲彈藥筒

一式三十七耗砲又ハ
 一式三十七耗戰車砲

本彈藥筒ハ場合ニ依リテハ例ヘバ
 一式三十七耗戰車砲九四式榴彈藥筒
 藥筒ト呼ブ事アルモ全ク同一彈藥筒種ナリ

備考 彈丸ハ各種砲共兼用シ得ルモ藥莢ノ寸法ニ長短アルニ付

○ 辭 令

(各通) 千八百六拾圓 江口 馨
 千四百八拾圓 武信 正治
 徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給ス(海軍省)

貳千四百圓 岡田 通磨
 千九百五拾圓 疋田 敬次郎
 千九百五拾圓 近田 一男
 千九百五拾圓 岡村 豪二
 千八百六拾圓 山田 正夫
 千八百六拾圓 大宮 敏郎
 千八百五拾圓 杉下 次郎
 千七百八拾圓 名倉 茂
 瀧田 大吉郎

(各通) 千五百六拾圓

千七百圓 高橋 眺正
 千六百八拾圓 飯田 正樹
 千五百六拾圓 井上 嘉樹
 千五百六拾圓 中尾 正
 千五百六拾圓 山崎 元典
 千四百七拾圓 伊藤 盈爾
 千四百七拾圓 奥田 三友
 千四百七拾圓 今成 敏夫
 千貳百圓 高橋 六郎
 千貳百圓 片桐 幹夫

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(海軍省)
 氣象技手 島田 連明
 第五艦隊司令部附ヲ命ス(海軍省)
 通信手 佐藤 悟郎
 第二十七海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ部内限判任官待遇トス(七四同)

(各通)

氣象技手 尾形 澄夫
同 藤井 一摩

第二氣象隊附ヲ免シ水路部附兼海軍氣象部附ヲ命ス

(七四同)

海軍大佐 黒島 龜人

海軍學生銓衡委員ヲ命ス

海軍武功調査委員ヲ命ス

燃料政策調査會委員ヲ命ス

能率増進對策調査會委員ヲ命ス

造船委員會第一委員會委員ヲ命ス

同 高田 榮

海軍生徒採用試験常置委員ヲ命ス(以上七四同)

○ 雜 款

○ 正 誤

七月十六日附公報(部内限) 七五二頁辭令欄下段七行
目「第一部第二課兼同第十二課第二部第九課勤務ヲ命
ス」ハ「第一部第二課兼同第十二課第四部第九課勤務
ヲ命ス」ノ、七月十九日附公報(部内限) 七六六頁上

段八行目「海軍大尉谷口精二」ハ「海軍大尉谷口靖二」
ノ孰モ誤

(別紙)

内火術特技兵(魚雷艇乗員ニ充ツベキモノ)臨時講習教程標準

(昭和十八年七月二十六日海軍公報(部内限))

科補	科				科目	項目	節	目	教授回数 (半日7 回トス)
	圖學	工作	電力機關	内火機關					
陸戰、武技、體操、體技、信號術ノ大要、救急法		金屬工業大要	發電裝置ノ大要 電機工業大要	運轉實習	小型内火機械	内火機械一般	内火機械一般、燃料需品ノ大要		二ヶ月教務
	畫法、見取	鋸使用法、鑽付法、鑿使用法、「キサゲ」使用法	發電機、電動機、白熱電灯ノ大要、電線接續法		魚雷艇機械ノ構造、作動整理操縱法	石油機械、小型ディーゼル機械ノ構造作動、整理操縱法			一〇
									二〇
									三〇
									一〇
									一五

1903

海軍公報

(部内限) 第四千四百五十號

昭和十八年七月二十七日(火)

海軍大臣官房

○通牒

官房需第一五七號

昭和十八年七月二十四日

海軍次官

各所屬長官殿

生活簡素化ニ關スル件申進

戰時國民生活ニ必要ナル衣糧ノ確保ニ付テハ固ヨリ政府ニ於テ萬全ノ措置ヲ講ゼラレツツアルモ其ノ需給ノ現狀ハ容易ナラザルモノアリ戰局ノ現段階ニ對處シ之ガ窮狀ヲ打開シ以テ戰爭ノ完遂ヲ期スル爲ニハ一ニ生活ノ簡素化ヲ圖リ極力消費ヲ節約シ困苦缺乏ニ耐ユル等一層質實剛健ナル生活様式ノ樹立ニ俟タザルベカラズト認メラルルニ付部内一般率先簡素ナル生活様式ヲ研究勵行シ戰力ノ増強ヲ圖ルノ目途ヲ以テ概ネ左記諸項ノ實施ニ關シ部下指導上留意セシメラルル様取計相成度

記

一 生活様式ノ簡素化

(一) 服裝ニ付テハ單ナル新品ニ依ル威容ノ整正ヲ求メズ寧ロ清潔簡素ヲ旨トシ保存手入等ノ勵行ニ依リ質實ノ威容ヲ探ラシムルコト

(二) 准士官以上食卓ハ努メテ兵食材料ヲ給與シ從前通ノ洋式獻立ヲ廢スル如クシ洋式食器等ノ使用ヲ節スルト共ニ從兵等ノ減員ヲ圖ルコト但シ調理ハ兵食ト同一ト爲スコトヲ要セズ適宜兵食ト別個ニ調理獻立ノ上供食スル如ク爲スコトヲ得

二 食糧ノ規正ト蓄積

(一) 糧食給與ニ當リテハ能ク限リ消費ヲ規正シ以テ喰ヒ延シニ依リ蓄積ニ努メ戰力強化ヲ圖ルコト

(二) 糧食調理ニ付テハ榮養ヲ旨トシ不必要ナル廢棄部分ノ皆無ニ努ムルコト

(三) 現地部隊ニ在リテハ「タビオカ」、「サゴ」澱粉、椰子ノ實、「パイヤ」等ノ現地産物資ハ極力之ヲ

海軍公報(部内限) 第四千四百五十號

昭和十八年七月二十七日

七九五

1904

取得食糧化スルノ外職務ニ差支ナキ範圍ニ於テ食糧ノ現地生産ニ努メ以テ現地自活ノ強化ヲ圖リ追送糧食品ノ蓄積ニ努ムルコト

- 三 物資ノ愛護節約
- (一) 物資ハ努メテ之ヲ愛護シ以テ其ノ命數ヲ延長シ極度ノ節約ヲ圖ルコト
- (二) 容器其ノ他ノ廢品ハ極力之ガ回收ニ努ムルコト

海人機密第一號ノ三三〇

昭和十八年七月二十三日

海軍省人事局長
海軍省教育局長

各鎮守府、艦隊、警備府參謀長
海軍練習聯合航空總隊參謀長
關係各所、轉長 殿

昭和十八年六月一日以降充員召集ノ第一補充兵、第二補充兵及第二國民兵ニ對スル人事取扱等ニ關スル件申進
本年海人機密第一號ノ二九二申進首題ノ件中左記ノ通改正セラレ候

第三號(口)表中海兵團ニ配員ノモノノ部ノ次ニ左ノ如ク

加フ

上海海軍特別陸戰隊ニ配員ノモ

昭和十七年内令第五百十七號ニ據リ規定ノ新兵教育ヲ實施ス

第三號(ハ)及第四號中「所轄長」ノ下ニ「上海海軍特別陸戰隊司令官ヲ除ク」ヲ加ヘ第一〇號ヲ削ル

附則

本令ハ昭和十八年十二月中旬以後上海海軍特別陸戰隊ニ於テ教育ヲ開始スベキモノニ付之ヲ適用ス

○ 辭令

(各通)

鐵道官補 武 菊太郎
同 根本 長五郎
同 北岡 虎吉

横須賀鎮守府附ヲ免シ横須賀海軍運輸部附ヲ命ス

(各通)

同 徳田 壽一
同 梶田 正之
同 大村 義之

吳鎮守府附ヲ免シ吳海軍運輸部附ヲ命ス

<p>(各通) 同 磯田定太郎</p> <p>同 上田豊太郎</p> <p>佐世保鎮守府附ヲ免シ佐世保海軍運輸部附ヲ命ス</p> <p>(各通) 同 山蔭清美</p> <p>同 須野忠一</p> <p>舞鶴鎮守府附ヲ免シ舞鶴海軍運輸部附ヲ命ス</p> <p>同 千田辰</p> <p>大阪警備府附ヲ免シ大阪海軍運輸部附ヲ命ス(以上 <small>六千五百</small>海軍省)</p> <p>集配員 増山才藏</p> <p>第四十一海軍軍用郵便所員ヲ免ス<small>(北同)</small></p> <p>通信書記 新井正三</p> <p>(各通) 通信書記補 花村俊雄</p> <p>第二十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>通信事務官 信田真一</p> <p>第二十二海軍軍用郵便所長ヲ命ス</p> <p>通信局書記 櫻澤雄二</p> <p>第二十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>通信書記補 小林榮一</p> <p>第二十三海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p>	<p>遞信局書記 新井正夫</p> <p>第二十三海軍軍用郵便所員ヲ免シ第二十二海軍軍用 郵便所員ヲ命ス</p> <p>事務員 目黒弘市</p> <p>第三十二海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>但シ身分ノ取扱ハ雇員トス<small>(以上北同)</small></p> <p>同 飯塚秀一</p> <p>第三十六海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>但シ身分ノ取扱ハ雇員トス<small>(北同)</small></p> <p>(各通) 遞信局書記 澤田郁雄</p> <p>遞信局書記補 國廣明雄</p> <p>第八海軍軍用郵便所員ヲ免ス</p> <p>事務員 石田美郎</p> <p>同 小澤三郎</p> <p>(各通) 同 松本勳</p> <p>第四十海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>但シ身分ノ取扱ハ雇員トス</p> <p>通信書記 大島繁次</p> <p>第二十四海軍軍用郵便所員ヲ命ス</p> <p>事務員 澤田秀雄</p> <p>第七海軍軍用郵便所員ヲ免ス<small>(以上北同)</small></p>
--	--

海軍公報(部内限) 第四千四百五十號 昭和十八年七月二十七日 七九七

1906

○事務開始
第四十七號驅潛艇艇裝員事務所ハ七月十八日長崎縣西
彼杵郡香焼村字長濱長崎海軍監督官事務所香焼島出張
所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○本日普通公報發行セズ

1907

海軍公報

(部内限) 第四千四百五十一號

昭和十八年七月二十八日(水)

海軍大臣官房

1908

○令達

官房經第八二五號

國防獻金等取扱手續左ノ通定ム

昭和十八年七月二十七日

海軍大臣

國防獻金等取扱手續

第一條 國防獻金、恤兵金及學藝技術獎勵金(以下單ニ獻金ト稱ス)ノ取扱ニ關シテハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本手續ニ依ル

第二條 國防獻金出納規程第二條ノ二、恤兵金出納規程第七條又ハ學藝技術獎勵金出納規程第五條ノ規定ニ依リ分任出納官吏ヲ命ズルハ左ノ區分ニ依ルモノトシ廳長ハ其ノ官氏名ヲ海軍省經理局長ニ通知スベシ

分任出納官吏ヲ置ク地方官衙

海軍經理部

分任出納官吏 備 考

部員ノ中廳長

海軍公報(部内限) 第四千四百五十一號

昭和十八年七月二十八日

七九九

海軍經理部支部

特設海軍經理部

特設海軍經理部

地方海軍人事部

地方海軍人事部

地方海軍人事部

地方海軍人事部

ノ指定シタル者

廳長又ハ部下

判任官以上ノ

中廳長ノ指定

シタル者

海軍經理部、同

支那、特設海軍

支那、特設海軍

支那、特設海軍

支那、特設海軍

支那、特設海軍

滿洲國在勤帝國大使館附海軍武官ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ地方在勤海軍武官ニ準ズ

海軍經理部支部長、特設海軍經理部支部長及地方在勤海軍武官(武官府ニ二名以上在勤ノ場合ハ其ノ首席者)ハ本手續ノ適用ニ關シテハ廳長ニ準ズ

第三條 寄附者匿名等ノ爲獻金寄附申出書ノ添附ナキ場合ハ出納官吏其ノ旨ヲ附記シ獻金寄附申出書ヲ作製シ廳長ノ檢印ヲ受クベシ

國防獻金ニ付航空機又ハ艦船獻納資金等使途ニ關シ寄附者ニ於テ特ニ希望アリタルトキハ獻金寄附申出

書ヲ添付シ

(限 内 部)

書ニ其ノ旨附記スベシ

第四條 出納官吏ハ獻金寄附申出書ヲ獻金ノ種別毎ニ

區分シ會計年度別ニ一貫番號ヲ附シ整理編綴スベシ

第五條 出納官吏ハ獻金受領證ニ前條ノ規定ニ依ル獻

金寄附申出書番號ノ合番號ヲ附スルノ外別ニ控ヲ作

製シ前條ノ規定ニ準ジ之ヲ整理編綴スベシ

第六條 出納官吏獻金ヲ受領シタルトキハ速ニ寄附者

ニ對シ左ノ區分ニ依リ感謝狀交付ノ手續ヲ爲スベシ

獻金額 一圓以上 千圓未満 小型感謝狀

同 千圓以上 一萬圓未満 中型感謝狀

同 一萬圓以上 大型感謝狀

第七條 出納官吏ノ受領シタル現金ハ毎日之ヲ取纏メ

郵便官署又ハ確實ナル銀行ニ預託スベシ

出納官吏ハ狀況ニ依リ現金出納事務ヲ前項ノ銀行ニ

委託スルコトヲ得

第八條 分任出納官吏ノ受領シタル獻金ハ每一月分ヲ

翌月月頭ニ、又ハ各種別ノ獻金ヲ通ジ一萬圓以上ニ

達シタルトキハ其ノ都度寄附者名簿(別紙様式)ヲ

添ヘ海軍省經理局出納官吏ノ當座預金口座ニ振込ミ

又ハ適宜ノ方法ニ依リ海軍省經理局出納官吏ニ送付

スベシ

第九條 海軍省經理局出納官吏ハ其ノ直接受領シタル

獻金ニ付寄附者名簿ヲ調製シ分任出納官吏ヨリ送付

ノ分ト併シ整理編綴スベシ

第十條 出納官吏ハ獻金ノ種別毎ニ現金出納簿ヲ備ヘ

テ出納ヲ明ニシ現金、預金及證憑書類(獻金寄附中

出書及獻金受領證控等)ト共ニ毎月末廳長ノ檢査ヲ

受クベシ

附則

本手續ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別紙様式添)

官房艦機密第三七七四號

當分ノ間横須賀海軍軍需部霞ヶ浦支部及横須賀海軍軍

需部四日市支部ハ海軍共濟組合規則ノ適用ニ關シ之ヲ

獨立ノ現業廳ト看做ス

昭和十八年七月二十七日

海軍大臣

海軍大臣

○通牒

官房第三六五號ノ三

昭和十八年七月二十六日

海軍省副官

各鎮守府、警備府副官殿

兵器簿及艦營需品定額表發布取扱ニ關スル件申改正ノ件通知

官房第三六五號申進首題ノ件中「海軍艦政本部、海軍航空本部ノ各主務部長」ヲ「海軍艦政本部長、海軍航空本部長」ニ改メラレ候

(六月十五日海軍公報(部内限)参照)

官房備機密第二二四號

昭和十八年七月二十六日

海軍省副官

關係廳長殿

徵備船舶宛ノ軍事郵便物ニ關スル件通牒

徵備船舶宛ノ軍事郵便物ニシテ其ノ行動所在不明ノ爲發送不能トナリ各軍港交換局ニ停滯シ發信人ニ返却スルノ已ムヲ得ザルモノ相當量ニ及居候條徵備船舶及其ノ所屬又ハ配屬部隊ハ徵備船舶宛郵便物ノ送付先ヲ最寄海軍軍用郵便所又ハ所管軍港ノ海軍港務部海軍軍用郵便監督官ニ通知スル様取計相成度
追テ行動頻繁ナルモノニ對シテハ留置局(又ハ海軍

軍用郵便所)ヲ通知相成度

軍需機密需第四九八號

昭和十八年七月二十七日

海軍省兵備局長
海軍省軍需局長

關係各廳長殿

空氣清淨劑甲使用後ノ處理ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ニ依リ處理ノコトニセラレ候ニ付テハ關係各廳ニ於テモ極力協力方取計相成度

記

一 目的

(イ) 重要物資切迫ノ今日容器ノ再用又ハ屑鐵トシテノ利用

(ロ) 內容藥(溶解苛性曹達)ヲ石鹼原料ニ活用
二 本品使用應ノ處置

本品ノ使用後ハ必ズ上下盲蓋ヲ施シ溶液ノ流出ヲ防ギ之ヲ毀損セザル様注意シ最寄海軍軍需部(特設海軍軍需部ヲ含ム)又ハ同支部ニ還納ノコト

三 還納ヲ受ケタル各海軍軍需部及同支部

(イ) 容器內溶液ハ出來得ル限り之ヲ採集シ現地石鹼製造用原料トスルコト

海軍公報(部内限)第四千四百五十一號

昭和十八年七月二十八日

八〇一

1910

(ロ) 溶液採集後空容器ハ叮嚀ニ保存シ適時之ヲ内地海軍需部(可成吳需又ハ阪需)ニ送還ノコト

(ハ) 前項ニ依ル送還品ハ業者ヲシテ再用ノ可否ヲ檢セシメ再用可ナルモノハ之ヲ會社側ニ、然ラザルモノハ屑鐵等ニ利用ノコト

(ニ) (ロ)項ニ依ル指示軍需部以外ニテ受領ノ際ハ直ニ最寄指示軍需部ニ轉送ノコト

四 採集苛性曹達ノ處置

(イ) 南方方面各特設海軍需部ハ「南東方面艦隊機密第二〇〇號ノ三ノ二五」ニ依リ石鹼ノ製作(供給)ヲ行フコト但シ之ガ製作ノ爲特ニ其ノ施設、要具ノ整備ヲ爲サザルコト

(ロ) 内地各海軍需部ハ(イ)ニ依ル溶液ヲ保管シ相當量トナラバ當局ニ通報ノ上指示ヲ俟ツコト

○ 辭 令

海軍中佐 板垣 金信

第一課兼第二課勤務ヲ命ス(註)海軍省軍務局)

海軍主計兵曹長 福本 千熊

第七聯合特別陸戰隊高砂義勇隊ニ要スル給與及其ノ

他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分仕出納官吏ヲ命ス(註)海軍省經理局長)

○ 雜 款

○事務所撤去
呂號第三十七潜水艦艦裝具事務所ハ六月三十日撤去セリ

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百五十三號

昭和十八年七月三十日(金)

海軍大臣官房

○通牒

艦本機密第一號ノ一〇一三六

昭和十八年七月二十八日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

九六式二十五耗機銃腰掛帶撤去ノ件照會

首題部品ハ從來ノ實績ニ鑑ミ不用ト認メラレ本年五月以降製造ノモノニ對シテハ之ヲ廢止セラレ候處供用中又ハ在庫ノモノニシテ現ニ之ヲ装着セルモノハ時機ヲ得次第撤去ノ上還納シ造兵材料トシテ適宜利用ノコトニ取計相成度

○辭令

機械工員 福田 利文

佐世保鎮守府附ヲ免ス(六五海軍省)

海軍主計大佐 井川 一雄

海軍服制研究調査會委員ヲ命ス

兵食研究調査會委員

造船委員會第一委員會委員

海軍規格審議會議員ヲ命ス(七四同)

海軍主計少佐 村岡 達志

海軍生徒採用試驗當置委員ヲ命ス

事務員 小堺 吉章

同 橋本 一郎

同 上野 忠義

同 山根 茂之

同 松本 薫

第八海軍軍用郵便所員ヲ命ス

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上七四同)

第三十二特別根據地隊附海軍中尉 上杉 敬明

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ニ指定ス

海軍公報(部内限) 第四千四百五十三號

昭和十八年七月三十日

八〇五

1912

第三十三特別根據
地隊附海軍大尉 川嶋 辰雄

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察
官トシテ勤務スル者ニ指定中ノ處指定ヲ解ク(以上
註海軍大臣)

第二課勤務ヲ命ス
海軍中佐 木内 三郎

第三課勤務ヲ命ス(以上註海軍省軍需局)
海軍主計少佐 子安 榮春

○ 雜 款

○兵進級候補名簿ニ關スル件通知
左記卒業練習生ニシテ本年後期(八月一日)進級有資
格者ニ對スル候補名簿ハ全部本校ニ於テ登載濟ニ付了
相知成度

一 第十二、第十三期普通科工作術練習生

○ 試驗問題發送

第一回普通科特技章(掌 整 備) 付與餘術試驗問
題

右七月二十四日左ノ通發送濟
一 單獨試驗施行ノ分 直接各部宛

一 聯合試驗用
應急出動艦船用 各人事部、警備府宛
(第十八聯合航空隊司令部)

○家族移轉料支給上ノ勤務地指定ノ件通知
昭和十六年官房第七二一號ニ依ル首題ノ件左記ノ通
記

第五十一航空戰隊司令部 横濱

○司令驅逐艦變更
第二十四驅逐隊司令ハ六月二十七日司令驅逐艦ヲ涼風
ニ變更セリ

○事務開始
三池在勤海軍武官府博多出張所ハ七月十五日福岡市千
歲町博多稅關支署内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所撤去
呂號第三十八潜水艦艇裝具事務所ハ七月二十四日撤去
セリ

○正誤
七月二十三日附公報(部内限)辭令欄中「海軍主計大
尉石井次男」トアルハ「海軍主計少佐石井次男」ノ誤

○本日普通公報發行セズ

1913

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百五十四號

昭和十八年七月三十一日(土)

海軍大臣官房

○令 達

官房機密第四五九號
 當分ノ間特ニ事情止ムヲ得ザル場合ニ限リ海軍經理部長及特設海軍經理部長間ニ於テハ協議ノ上其ノ會計監督事務ノ一部ヲ相互ニ委任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ委任事項ヲ海軍大臣ニ報告スベシ
 本令ハ昭和十八年六月一日ヨリ之ヲ適用ス
 昭和十五年官房機密第八〇〇〇號ハ之ヲ廢止ス
 昭和十八年七月三十日
 海軍大臣

○辭 令

十二設營隊徵用員 織岡 一夫
 吳海軍建築部ニ配屬ス
 氣象技手 具志堅 興富
 第二氣象隊附ヲ免シ水路部附兼海軍氣象部附ヲ命ス

(以上 海軍省)

第四海軍建築部徵用員 辻 宇三郎

海軍施設本部補給部ニ配屬ス

海軍主計中佐 栗 武彦

第二課勤務ヲ命ス

海軍主計少佐 村岡 達志

第二課勤務ヲ命ス

海軍主計中佐 栗 武彦

第四課勤務ヲ命ス

海軍省經理局

○雜 款

○事務所撤去
 驅逐艦涼波艦裝具事務所ハ七月二十七日撤去セリ
 ○失官

海軍公報(部内限) 第四千四百五十四號

昭和十八年七月三十一日

八〇七

1914